

第2期第13回生涯学習センター運営協議会 議事録

〔日 時〕 2015年4月20日（月）10:00～12:00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：石川清（会長）、小川久江（副会長）、岩本陽児、太田美帆、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、
富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子
以上 13名

事務局：稲田センター長、鈴木担当課長、松田事業係長、井上担当係長、高木担当係長、
村田担当係長、小林担当係長、中村主事（記録）、小山主事（記録）

〔欠席者〕 なし

〔傍聴人〕 1人

〔資 料〕 ・第13回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・2015年度予算及び運営協議会開催日程について 資料1
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書 資料2
- ・古民家見学会「甦る古民家～旧荻野家住宅改修工事を見る」実施概要 資料3
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書 資料4
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料5～資料13
- ・市民大学の現状・課題・展望について（案）（当日配布資料）
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告8（当日配布資料）
- ・まちだ市民大学HATS通年・前期講座 応募状況（4/16時点）（当日配布資料）
- ・ことぶき大学前期募集 応募状況（4/16時点）（当日配布資料）
- ・2015年度障がい者青年学級活動予定について（当日配布資料）
- ・2015年度障がい者青年学級（3学級）日程表（当日配布資料）

○ 異動職員の紹介及びあいさつ

2015年4月1日から配属となった鈴木担当課長、井上担当係長、高木担当係長、矢嶋主任、小山主事のあいさつ及び3月31日をもって、外川担当課長、齋藤担当係長、内藤主任、池原主任、芥川主任、辻林主事が異動したことを報告する。

<2015年度予算及び運営協議会開催日程について>

事務局：生涯学習センター運営協議会（以下、運営協議会）の回数が昨年は12回開催したが、今年度は予算上9回に減らすことになった。町田市ホームページ等でも予算概要は載っているのでご覧いただきたい。生涯学習部全体としては事業ベースで279,197,000円減額になった。生涯学習センター全体では2014年度との比較は4,899,000円で増えている、外壁の改修等ハード面の修繕費が占めている。市全体でも財政が厳しい状況にあり消耗品等は減額している。運営協議会の回数は減るがご協力をお願いしたい。

会 長：事前のお知らせから変更されている日程もあるのでご注意ください。予算は総額何%減になっているのか。

事務局：生涯学習部全体として約2億7千9百万円減で、約20%減でございます。

<市民大学について>

会 長：今年度の大きな課題として市民大学の状況を知り課題を見つけて、これからのあり方を考えていこうと思う。

事務局：第1期の運営協議会の反省点及び今後の課題ということで、個別の事業を考察するだけでなく、センター全体の事業についても研究し取り組んでいくことを話し合ってきた。昨年度1年は「どういったことを調査研究するのか」を話し合い、市民大学について取り組むことが決まっ

た。本来スケジュールなども運営協議会の皆さんで議論いただくのが筋であるが、たたき台として「市民大学の現状・課題・展望について（案）」という資料を作成した。現状把握については4～7月くらいに前期の講座が開催されるので、実際にプログラムを見て理解いただき、必要に応じてはプログラム委員の方たちと意見交換などしていただきたいと思う。8月に課題整理を行い、9月でご提案などいただければよいと考えている。10月からこういった方向でまとめていくのか方針検討し、2月3月でまとめをいただくスケジュールを考えている。全8講座あるので一人2～3講座担当を決め意見をまとめて、取り組んでいけないかと思う。募集要項に講座の曜日、回数など載っているのを参考にしていきたい。

会 長：資料には1人2講座程度とあるが、まんべんなく見ていくために1人3講座程度を目安にしていきたい。グループを作り、8月で課題整理を行い、9月の運営協議会では各グループから報告があがってくるかたちをとりたいと考えているがよろしいか。

委 員：市民大学の現状・課題・展望について取り組むということだが、何を目的に何をゴールとするのか。

会 長：まずは、現状を見ていただくということを話し合った。

委 員：現状を見ることはとても大事で見たいと思う。しかし、見るときの視点がとても大事である。今までどの講座を見ても、細かい問題はあってもどれも良い講座である。しかし、こういった目的なのかと問われると目的からずれている講座もある。講座をみることで、市民大学を全く違うものに変えようとしているのか、それとも今あるものに手を加えて受講者の人数を増やすのかなど、何を目的にやるのかははっきりさせないとどの講座をみても為になつたと感じて終わるように思う。これからの町田市の市民大学はどういったビジョンで考えて行くのかというビジョンがないと、ビジョンがあって、現状、課題があり次の展開があるわけだから、ビジョンを議論しないうちに見てきても、ただ良かったという感想で終わってしまうのではという疑念を感じる。今回の取り組みは何が目的で、運営協議会ではどこまでやるのかというゴールをはっきりさせたほうが良いと思う。

委 員：課題解決というのは、ビジョンがあって、現状、課題があり、具体策をどうするかということであるから、最初におさえないとばらばらな視点で見ても次の具体案が分析できないのではと感じる。

会 長：おっしゃることはよくわかる。事務局ともそういった議論になったが、ビジョンを形成するために、まず見ようという考えに至った。実状がわかってから、どうすべきかという議論に入ろうと考えている。委員のなかでも市民大学についてよく知っている方、知らない方、今の段階で理解はばらばらであるので、コンセンサスを得るためにも最低限の知識を実地踏査も含めてまずは見てみるかたちを考えている。ビジョンという点でいえば、9月に整合するということになる。その間に、ビジョンを形成する議論をしてもよいかと思う。

事務局：前回の運営協議会でご参考までにお配りした1997年に策定した「町田市民大学HATS推進計画」（以下、推進計画）というものがある。そのなかに歴史的な経過と、それをどう変えていったほうがいいのかという提案が載っている。今、そのとき描いた理想ができていのかどうかも見方としてはあると思う。推進計画の内容を足がかりに一度市民大学の状況を見ていただいて、もし質問があればこちらから資料提供もさせていただく。それで進めさせていただきたい。

委 員：運営協議会としてのゴールとしては、1997年に作られた推進計画を見直すということがゴールになるのか。委員の我々は、市民大学の内容を見直すとか変えるということがゴールではないのか。今年度の運営協議会の現状をみて、課題を整理して分析することのゴールは何になるのか。最終的には市民大学を変えるという目的はどのあたりにあって、今回の我々のまとめは、何のためのどこまで取り組むということなるのか。

会 長：まずはポリシーを再検討したうえで、改善策があれば改善するということである。推進計画は非常によくできているし、理想と現実がマッチングしていない実状も承知しながら書かれたものであると思う。再検討というのはそれがゴールではなく、市民大学と公民館事業が統合した生涯学習センターとしてのプログラムポリシーは、統合前の市民大学の運営ポリシーを受け継いだままでいいのか。そのままいけないのではないかという気持ちが私の中にはあり、検証

をしたい。

- 委員：市民大学の講座をどうするかではなく、どういったビジョンを描いて行くかという前段階として、以前作られた推進計画がどうなっているかを検証する取り組みになるのか。
- 会長：現状把握をして、端的なプログラムポリシーはそのままでもいいのかを含めて、考えて行く。
- 委員：ここまで2人の意見で話し合っているのだから、皆がどう認識しているのかを伺いながら、議事進行するのはいかがだろうか。
- 委員：市民大学のプログラム委員の方たちと懇親会や座談会などを設けて、説明をしていただくのが大前提であるという話が出ていたと思うのだが、その話はなくなってしまったのか。
- 会長：同時進行している。プログラム委員はポリシーにもあるように「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトを基にプログラムを作っている。そのコンセプト自体を我々はもう一度再検証して、良いのであれば続け、そぐわないのであれば変えるということも有り得る。プログラム委員はコンセプトを変える権限はなく、今までのコンセプトのなかでやっていただきたい。プログラム内容は他市と比べてもすばらしいプログラムであると思う。また、プログラム委員から話をきいて議論することも大事であり、やっていくつもりである。そのこととコンセプトを吟味することは別の話と私は考えている。
- 委員：たしかにそれは一つの方法であると思うが、市民大学の内容について知らない方が多いので、段取りの取り方としてプログラム委員に話を聞くほうが先だったのではと思う。
- 事務局：昨年度1年は、2015年度1年かけて何をやるかという詰めの作業をしていたので、今の具体的な話は今回以降の作業であると思う。また、3月までにプログラム委員と話をする機会については挙がっていなかった。(資料に提示した内容を)たたき台と言わせていただいたのは、皆さんの中でこの後どのように進めていくかをお話しいただきたいからである。辰巳委員がおっしゃるゴールももちろん大事であり、どこまでをゴールとしていくかもどこかで検討していただくことになる。こちらで「ここがゴールです」、「ここまでやってください」と示してやっていただく話ではないと思っている。
- 委員：両方必要である。4月～7月の検討期間は運営協議会も何度かあるので、講座見学とは別に見学の報告や講座に対する意見を交えるなど、両方の視点から協議会を進めればよろしいのではないか。現状把握を中心に行うが、念頭にはどう変えて行くのかというビジョンを描きながら進めていく。1回目は過去の歴史を踏まえてどうだったのかを共通認識を持てるような時間をとって、そのうえで現状把握を行い、未来をみつめるというかたちをとればよろしいのではないか。
- 委員：委員の皆さんは市民大学にすごく詳しく、ある程度イメージがある方が多い。私はここでいただいた資料以上のことを知らないが、市民の大半はそういった方々である。今回こういった機会をいただき、これまで書類を読みながら講座のことは徐々に理解してきたが、受講者がどのような姿勢や表情で参加しているか、参加してどうなったのかなどはわからないので、すごくありがたい企画であると思った。実際に見に行くとよりよく知って「せっかく良いことをやっているのだったら、こうしたら良いのではないか」と見えてくると思う。1人3講座を見学するのは大変だが、私のレベルでは充分な取り組みである。
- 副会長：委員のなかでどこまで理解しているか、体験しているか、かかわってきているかなどで、格差があると思う。まず、現状を調査する体験をし、自分の肌で感じ、そこからということは私もありがたい。そこで委員一人ひとりが最低限の共通認識することが大切である。そこから、次の一歩に繋がるのではないか。知識をお持ちの先生方からすると、歯がゆい思いはいっぱいあると思うが、委員全員が最低限の共通認識を持つ取り組みをして、そこから進めていければ良いと思う。
- 委員：課題や展望ももちろん必要であるが、市民大学の魅力づけをどうするかということが大事である。一つ一つの講座を見ることももちろん大事であるが、参加者が減ってきているので、市民大学が本来どういった機能があって、どういった魅力づけが必要なのかを議論することが必要である。例えば学長が誰であるとか、ホームルームやサークル活動など、そういった魅力づけも付け加えなければいけないと思う。そういった議論もできれば面白いと思う。
- 委員：見学することは、すごく良いことである。ただ漠然と見るだけでなく、最低限、推進計画を読

んで「市民大学とは何なのか」という共通理解があったうえで、スタートしなくてはならない。私たち委員は今まで講座の評価をしてきたが、その結果がどこへ行くのか、不安に思いながらやっている。昨年は、評価シートを変えてみたが、下からボトムアップで積み上げて行くのは良いことであるが、どこへ行くのかわからないとまずいと思う。生涯学習センター側も市民大学について話し合いをしてきていると思うし、生涯学習審議会でも町田市生涯学習をどういった方向で進めるのかが話し合われていると思う。同時に進んでいても全体像が見えなくては、見学をしても講座を見てきただけということになりかねない。他市の市民大学を見ると、クラブ活動的に自分たちで市民課題を解決していくために講座やNPOを作ったり、発展している市民大学がたくさんある。市民大学がどの方向に向かうのか。社会の変容を目指す生涯学習であるのか、個人で勉強して教育を積むだけの生涯学習であるのか。このごろの生涯学習を見ると市町村によって向かう先は違うが、個人の変容だけでなく学んだことを社会や街に関わって、個人も社会も変わって行くかたちに変わりつつある。そのなかで、私たちが議論するのは市民大学のどの部分なのか。また、生涯学習センターはどの部分をやって、町田市生涯学習のどの辺りに位置づけられているのかが見えない。やり方として見学に行くことは否定していない。むしろどんな方向で考えていくのか、市民を集めてゼロベースで「どんな市民大学だったら良いのか」など議論して行く場も作っていくことも必要であると思う。市民大学を改革しようとするのなら、例えば後期を一旦休んで考え直すようなスケジュールなども作らなくては、常に流れていってしまうものである。そういったスケジュールリングも必要なのかと思う。

会 長：我々が動くうえでビジョンが必要だとよくわかった。しかし、ビジョンを作ってから動くのではなく、まずは講座を委員の皆さんに見ていただき、たたき台のスケジュールで行けば9月にビジョンができる。ビジョンありきで見学ではなく、まずは見学の流れになる。なぜ、市民大学一つを絞るのかは、まずは市民大学を機軸に生涯学習センターがどこに向かって行くか、全体としてのあり方を考えるうえで一つのバロメーターとして扱う。市民大学の各講座一つ一つは立派ではあるが、それをどこに向けて行くのかを考えるのはプログラム委員でなく、やはり運営協議会の役割であると思う。その方針を貫くためにもまずは皆で見たいと思う。

委 員：委員皆の意見を整理しながら議事進行していただきたい。皆の意見を会長が一生懸命まとめようとして自分の意見を出してしまっているように感じる。例えば、市民大学のプログラムの見学・現状調査を行うという件について確認し、皆で同意がとれていることを再確認いただく。2つ目は、ビジョンを描くという点についても確認いただく。3つ目は、市民大学の動機づけ、魅力づけを考えましょう、4つ目は、街、社会への変容するものを求めたいということがでている。その4つのコンセプトを踏まえて、事務局が提案したスケジュール案をもとに、皆で議論して行くのがよいのではないかと。

会 長：ビジョンをいつ作るかということが今の議論ではないか。見学前からビジョンを作るべきだというのが1つ目の意見であり、私はビジョンを作るが9月に皆で作らないかという意見を挙げている。そのビジョンに向かうべく市民大学がよりよい方向に進むために、市民の皆さんにわかかっていただく仕掛けをしましょうというのが布沢委員の意見である。段階としては、まずは現状認識するために見学しましょうというのが皆で認識している提案である。

委 員：会長としては事務局が出したスケジュールリング案を良いという意見である。皆の意見としては、並行していく意見も出ている。お互いの意見を尊重しながら並行的に議論していただきたい。どちらの案も否定はしていないので、その辺りをもう少し説明していただきたい。

会 長：今コンセプトと言われたが、それらは相が異なり同時並行に並ぶコンセプトではない。それを一つのスケジュールリングをもとに4つのコンセプトについてお話したところである。スケジュール案が出るということはある意味、コンセプトを解決する順番を提案として出ているということである。

委 員：長く関わっているが、私自身は市民大学の講座を受講したことはない。受講した皆さんからお話を聞いたり、運営協議会でコンセプトや目的を聞いているというのが現状である。今回の講座見学は、まっさらな状態で見るとは知っている方々とは違う目線で見られるが、知らないままで飛び込んでしまっただけは何をどう見ていいのかわからないという点もある。委員のなかでも知識レベルや経歴で見ると視点は違うが、最低限、推進計画などの資料を読みこんだ上で見に行

- き、その辺りとずれていないのかなど基準を設けて、皆で足並みを揃えていけばよいと思う。
- 委員：市民大学の件は、個別のプログラムについて毎月こういった場で随分話し合ってきている。皆さん頭ではわかっていると思うので、それを確認することは必要である。そのときに確認して「よかった」ではなく、例えば「プログラム委員が作られたプログラムは、ビジョンに沿って作られているのか」、「『あなたを励まし、地域を育てる』というコンセプトと外れていないか」という確認や、今まで市民大学の企画書などで積み上げたものの確認として見に行くのは良いと思う。ビジョンは一番柱になるので、我々委員ももちろん見るが、プログラム委員のプログラム会議で話し合われているのかをお聞きしたい。その上で作られていなければ、我々が現状確認の見方をしても意味がない。ビジョンやコンセプトに基づいているのか確認し、その結果外れていけば「違うのでは？」という意見は出せると思う。
- 会長：市民大学と公民館事業が統合し生涯学習センターになる前に、市民大学の運営協議会のなかでプログラム委員と協議会委員の中で話し合い、プログラム委員は「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトを下にプログラムを作っていく議論がされた。生涯学習センターになってからは議論やチェックはされていないが、外から見ている分には沿っているように思う。我々はチェックに行くのではなく、見学を通じてそもそも市民大学がこのコンセプトで行って良いのかを含めながら、まず現場を見ることである。また、現場を見ることはビジョンを持ってからだという意見と、見てからビジョンを構築しようという話なのか、今の議論はそこだけだと思う。
- 委員：運営協議会の役割は、何なのか。例えば、運営協議会のなかで市民大学を全部変えようといえれば、それでよろしいのか。
- 会長：良いかどうかをまずは現場を見ましようと言っている。
- 委員：生涯学習センターの職員も、市民大学について研究調査していると思う。例えば、他市町村の市民大学はどういったものか、生涯学習審議会で何を求められているのかなど、運営協議会委員が知らないこともある。市民大学のなかで、運営協議会委員はどこを任されているのか、今一つピンと来ていない。生涯学習センターとして、どういったやり方で今後展開して行こうと考えているのか。
- 事務局：運営協議会の役割は要綱で示していて、市民大学の見直しの記載はない。市民大学に関しては運営協議会の役割にはないが、事業評価だけではない役割もあり検討いただいてもよろしいのではないかと投げかけの下に行われているものである。意見をいただいたからといって拘束力はなく、皆さんが集まって議論いただく場というものが重要であると思っている。せっかく集まっていたので、それぞれ違った視点で委員の皆さんに意見を伺いたい。
- 会長：規定のなかで我々委員がすべきことを考えるべきだ。しかし、将来的に生涯学習がどうあるべきかのコンセンサスがとれてないと1つ1つのプログラムについても議論できない。運営協議会の役割は町田市の生涯学習を変えることではなく、プログラムをより改善していくなかで、生涯学習についても考えていくということである。それは、町田市の教育プランに書いてあり、そこからははみ出していないつもりである。そのなかで、どこに向かうのかという点は必要であるが、限度のあるなかで協議して行くしかない。次の教育プランの中で改善されれば、そのなかでどうすべきかをまた考えれば良い。
- 委員：講座見学は、全8講座7～12回開催のなかで、そのうちの1回でも見に行けばよろしいものか。それとも、講座を通して見るべきか。
- 会長：1回でも見学すれば良い。
- 委員：1つ2つの講座を見学し、ビジョンと照らし合わせて語ることでできるものだろうか。殆どの講座が外部の講師が違う内容を実施するなかで、見学した回はたまたまこうであったというケースが往々にしてあり得る。見学した回についてこうであったと言えるが、これが市民大学のビジョンと照らし合わせてどうなのかまでを言えるのかは難しいのではないかと。一つ提案としては、推進計画と照らし合わせて市民大学がどうなっているかも含めて考えることをするのであれば、もう少し長期的な視点やマクロな視点も必要であるかと思う。一つ一つの講座がどうなっているのかミクロな視点も大事だが、全体の講座の傾向の推移など（例えば参加者の推移や評価の推移など）多様なマクロな視点のデータを出していただくとういうのも大事だと思

う。

会長：今大学も第三者評価を実施している。私はよく審査する側になるのだが、その際に始めから必要な資料は出てこないが、資料がなにかを書き始めると具体的に必要な資料がわかってくる。その取っ掛かりのなかでまずは見学しようということであり、それが直接的なビジョンに繋がるかは本人の力量によるが、大方はすぐには繋がらない。取っ掛かりとして見ようということがこんなに根本的な議論になろうとは予想していなかった。

委員：長期的なビジョンで議論をする場と並行して行うことが大切である。私は3つの講座を2、3回受講しているが、たった1回か2回みただけではわからないと思う。また、私たち委員に投げられている範囲のなかで、どちらかというゴールはプログラムの改善であると思う。全体像を噛み砕いて、自分たちでディスカッションする場も必要である。必要に応じて仮説をたてて、見学に行く。見学ありきではなくて、見学は理解するために裏づけを取る役割になる。前回配っていただいた推進計画の資料をもとに、併用しながら両方をやっていくのが現実的である。

会長：おっしゃるとおりである。推進計画を軸にしたい。

委員：プログラム委員に1時間程この場で話を聞くとよいだろう。運営協議会の回数があまりないなかで、スケジュールリングをうまく立てておかないといけませんが、委員長や委員などの話を聞く機会をつくっていただくのもよいのかと思う。

委員：プログラムを見学するというのは運営協議会の場とは別の話になるであろう。配布資料には4～7月に見学を行うと書いてあり、私のように全く市民大学を覗いたことのない者は、この期間に講座を見学して体験をしてみることになるが、委員皆でビジョンを決めるなどの検討後も、違った視点を持ってそれぞれの時間の許す限り見学させていただくことで皆さんの異論はないと思う。問題はこの運営協議会の1時間を使ってどういう議論をするのかである。推進計画をもとに議論していくのも、プログラム委員の話聞くのでも良いと思う。どういったスケジュールリングで1年やって行くかという話を進めたほうが良いと思うが、いかがか。

会長：ビジョンを明確にするための議論と見学を同時並行して行く。プログラム委員に話を聞く点については、プログラム委員はビジョンをもとにプログラムを作っている役割であるから、プログラム委員にビジョン自体が良いかを聞く理由がない。参考意見のために聞くというものはあるのかもしれない。

委員：プログラム委員が、疑問を持たれてないのかということはあると思う。実際にご自分も受講された方が中心になっている委員がビジョンを与えられて作っていきななかで、疑問を抱えている方がいたら、そういったお話が伺えればいいのかと思う。

委員：以前市民大学の委員をやっているときに、プログラム委員に話を聞いていた。プログラム委員もプログラムを改善してもなかなか集客に結びつかないというのが一番の悩みだとおっしゃっていた。市民大学として求められているものとマッチングしていないものがどこかにあるようだ。そういうものをプログラム委員もはっきりさせたいという気持ちがあるのではないか。

会長：いつもそれを議論すると生涯学習とはなにかという議論になり逸脱してしまい、その繰り返しになる。プログラム委員が不満をもってらっしゃって「こうしたい」という思いと、その逸脱とのせめぎあいである。しかし、それは常にあるものである。

委員：そうだとしたら、現場を見るのは大前提で良いのだが私たち委員が講座1つみて話し合っても、それだけで何が得られるのか。それをはっきりさせるために、まず推進計画を読み合わせてどういった目的で作られているかを共通認識し仮説を立てたうえで、望まないといけなのではないか。チェックシートなど作っても良いのではないか。

会長：まずは皆さんのなかで、チェックシートを作られて見学を進めてみたい。

委員：チェックシートは一人ひとりに任されるものか。

会長：そうである。

委員：まずビジョンを頭におきながら現状の確認と、ある程度見ておられる方については再確認を行う。その際に、必要であればプログラム委員に話を聞くということになるか。

委員：ここにいらっしゃる委員は詳しい方が多く、そこでプログラム委員の話を知りたいという方向に向いているということはますます専門的になっていく。市民の目線からしたら、こういった

議論を税金をかけてやっていたのか、町田市はこんなに教育施設があるのにさらに議論する必要はあるのかと思う市民もいると思う。集客が足りないと現場の人たちが悩んでいるのだとしたら、市民との意見にギャップがあるからではないか。例えばこういった議論をするときに、「市民大学を知っているか」「面白そうだと感じるか」など市民に聞きに行こうという意見もあって良いと思う。運営協議会が専門的なプログラム委員の意見を聞いては、ますます煮詰まるのではないか。一度まっさらにして、市民大学を知らない市民が「へえ」と思うような意見がどこからも出てこないと思った。

委員：答えは何人かの委員が出されている。配布資料の「1 現状把握（理解）」の項目と並行して行う1'（ダッシュ）という推進計画等を学ぶタイムチャートがないのではないか。このような段取りで運営協議会3回分のスケジュールリングを作っていたらよければよろしいのではないか。

会長：そうしましょう。見学と並行的にビジョン形成のための議論をやっていく。また、他市町村の現状把握について資料があれば良いと思う。市民大学の見学については第三希望まであげて、事務局が調整することとする。

<協議事項>

1、2015年度生涯学習センター事業の企画について

(1) ①乳幼児の保護者のための講座「小粋な子育て～親子アイ～」

事務局：8ヶ月以上からの未就学児を持つ保護者に対して行う全8回の講座である。「子育ての知識を得ることで、以前より子育てに向き合うようになる」「振り返りなど受講者主体の回を設けることで、受講者の主体的な学びと参加者同士の交流を図る」ことを目標に、効果指標を90%に掲げさせていただく。子育ての孤立環境をなくすということも必要な視点であり、この講座の大きな特徴でもある。タイトルについて、子育てをするなかでつながれるような仲間を作ることが大切だと思い「粋」という表現を使ったが、もう少し身近に感じられるよう「小粋」という言葉を用いた。サブタイトルの「～親子アイ～」は「愛する」「親子の見つめあい」「Eye」などさまざまな意味合いを込めてつけたものであり、これらの「アイ」をもって子育てと向き合うというテーマも設定した。

(意見・質問)

会長：タイトルを「親子アイ～支えあう小粋な子育て～」にしたらいかがか。

事務局：子育て講座という主旨にインパクトを持たせたくて「小粋な子育て」をタイトルにして、サブタイトルを「親子アイ」にした。

副会長：いろいろな意味の「アイ」があるのが良い。

(2) 生涯学習総務課共催 古民家見学会「甦る古民家～旧荻野家住宅改修を見る～」

事務局：第1回目見学会は3月28日に実施し報告もでていますが、年度をまたぐ企画なので年度ごとに評価シートを出させていただいた。いただいたご意見については、報告のときにお伝えする。

(意見・質問)

委員：4月以降は連続講座ではないのか。

事務局：基本的には連続にしている。実は3月28日に次年度出席する方の希望を聞いたうえで、募集した。定員30人で、継続した参加者を優先している。

(3) コンサート事業【アルパの調べ～パラグアイの花束】

事務局：6月28日開催のコンサートである。中南米の民族楽器による演奏会で、現地の文化や生活についての話も織り交ぜ、楽しく学べるのが特色である。なお、企画書内「前年・前回との違い・改善点」においては、同様の民族楽器による演奏会であった前年度9月のアルゼンチンタンゴのコンサートでの意見を記載している。

(意見・質問)

委員：音楽を楽しみに大勢の方がおいでになるのは良いことである。こういった機会に、生涯学習センターの施設や活動をアピールして、それ以外の講座にも関心をもってもらって流れをつくっ

ていただきたい。

2、事業評価について

(1)「ひきこもる心を理解する」

事務局：保健所との共催講座で昨年度に引き続き実施したものである。定員を超えた応募者数があったが断わることをしなかったので定員充足率160%となっている。熱心な受講者や問合せによる途中参加もあった。後半は講座が終わった後も懇談会の場を持ち、親の会の立ち上げを模索しているところである。2015年度も保健所との共催講座を考えている。

(意見・質問)

委員：定員充足率はどういった計算をしているのか。

事務局：定員に対してどのくらい参加者数を超えたかを出している。1回目がホールを使い公開講座を開催したので大変参加者が多かったのが、このような数値となった。

委員：公開講座から連続講座を開催するときの定員充足率などの考え方を、整理していただきたい。

委員：定員充足率は160%で高いが、出席率66%と低い。

委員：保健所との共催であるが、どういった役割分担なのか。

事務局：1回目の謝金や、講師の設定など専門的な知識が必要な部分を保健所が担当した。生涯学習センターは会場確保とで広報まちだの掲載はしたが、保健所もチラシの配布などに積極的に取り組んだ。

委員：適切にPRできたのではないかな。

(2)「映画監督直伝！私のショートムービーづくり」

事務局：文化振興課、町田市文化・国際交流財団と共催事業である。予算と会場は文化振興課が担当し和光大学ポプリホール鶴川で開催した。もともと同ホールの利用促進と施設周知のための事業であった。講師交渉や広報、当日運営は生涯学習センターが中心に行ったものの、ポプリホール鶴川、文化振興課の職員も全回参加した。定員20名で実際の参加は14名、うち1名は途中不参加となった。和光大学の教授1名と学生2名が講師をしたが、実際には手一杯で14名程の人数が適正規模と感じた。鶴川などお住まいの地域について一生懸命勉強をされ映像に収め発表するとともに良い事業になったと思う。同ホールで4月25日に完成発表会を開催する。

(意見・質問)

委員：事業評価シートの「効果指標（結果）」欄が抜けている。

事務局：空欄、文章が切れている点などは修正いたしたい。

(3)生涯学習総務課共催 町田を知る講座「旧荻野家改修工事見学会」

事務局：旧荻野家改修工事についての結果である。前回やったときは参加者が殺到したが、今回は定員に満たなかった。また、高齢の方が多かったため、自由民権資料館までの移動が大変だったという話を聞いている。

(意見・質問)

委員：バスで移動はしなかったのか。

事務局：会場へのバスの案内はしたが、会場間の案内はしなかった。次回は案内をしたい。

委員：事業評価シートの「プログラムの妥当性」評価がCになっている。

事務局：移動の話があったからである。プログラムの組み方自体がどうだったのかという点で準備不足であった。

委員：学生とともに参加した。いつも見られないような茅葺屋根がはずしてあるところを間近に見て、興味深かった。

(4)健康講座「ロコモ体操～100まで歩ける足腰づくり」

事務局：昨年10～11月に市民企画講座として実施した際に、定員を大幅に上回る応募があり内容を再構築して開催した。事業評価シート「運営協議会意見等」の前回意見は2015年1月の運営協議会でいただいた市民企画講座としてのご意見である。前回市民企画では、爆発的な応募

と裏腹に参加者が回を追うごとに少なくなっていたが、アンケートを分析し内容を工夫したおかげで脱落者はでなかった。今回も応募者は多数だったが、イベントダイヤル受付で抽選を行い当落ははがきでお知らせした。4回連続実習講座では超高齢社会における医療費や介護保険費の増大を時事問題と捉え、そこに生きる高齢者の健康づくりという視点で行った。一環として町田市の介護予防事業について講義を設ける工夫をした。また、次年度以降の計画について、健康に関して非常にニーズがあることがよく分かったが、ロコモ対策の事業は他課でも活発にやっていくようであり、他にも多くの健康法はたくさんあるので、内容については慎重に検討していきたい。また、市民大学の修了生団体やボランティアバンク登録者など色々な人材のノウハウを活用する必要もあると感じている。

(意見・質問)

委員：読売新聞で取り上げられていたので、今回資料を配布した。私が指導している市民大学文学講座の修了者団体のゆるやか健康塾でも、高齢者向けの運動をやっている。高齢者向けで簡単に自宅で誰でもできるところがミソであるので、ご紹介させていただいた。

(5) 若者応援プロジェクト「ココロも磨くファッション術」

(6) 若者応援プロジェクト「あこがれのギョーカイ人に聞いてみよう」

(7) 若者応援プロジェクト「矢部澄翔の好き！を仕事にする方法」・・・一括して報告

事務局：若者向け事業は従来から夏のゆかた着付け企画や冬のまちコレ、さがまちコンソーシアムとの連携などで実施してきたが、生涯学習推進計画において若年層への学習機会の提供が重点事業として位置づけられ拡充をしたものである。(5)「ココロも磨くファッション術」について、講義のほか講師によるコーディネート診断を行い、「ファッションがもたらす心理的効果を感じることができた」という結果が出た。(6) 若者応援プロジェクト「あこがれのギョーカイ人に聞いてみよう」はファッション、マスコミ、旅行といった若者に人気の業界から参加者の年齢層に近い社員からお話を伺い、将来の考えるきっかけとなる内容であった。(7) 若者応援プロジェクト「矢部澄翔の好き！を仕事にする方法」は、書家の矢部澄翔氏をによる講義であり、参加者に夢を追うことのすばらしさを伝える内容であった。各事業ともに集客に苦戦を強いられたがチラシを広範囲に配布し、地道な掘り起こしに努めた。直前に応募者に日程の確認も兼ねて連絡を行い、ドタキャンを防止し呼びかけの工夫もした。ニーズの把握、掘り起こしの観点で今後の事業にも参考にできる点もあり、一定の効果があったと思う。また、横浜女学院の学生による書道パフォーマンスを行い、現在成果物の展示をセンターで行っている。

(意見・質問)

委員：3つともとても良い事業名で工夫しているが、若者向けのテナントが多いビルなのに応募者数がすごく少なく注目されないのはなぜか、税金を使って開催する事業なのか疑問に思う。ひとつの結果で結論を出すのはどうかと思うが、納税者としたらどうだろうと感じる。(吉川委員)

委員：これだけ参加者が少なかったら、やる意味があるのか。タイトル、テーマがまずいいのか、日程がまずいいのか、若者のニーズに全く合っていないのか、分析が必要ではないか。内容も含め見直す必要がある。以前から若者の参加が少ないと言われていたなかで、これだけやってやはり参加は少なかった。今の若者に生涯学習センター自体の魅力がないのか。あるいはアイドルを呼んで来ればいいのか。憧れのギョーカイ人といって、名の知れた人ではなく憧れでもなさそうな人を呼んでいては響かないのではないか。若者のニーズに合ったような事業を再構築しなければならぬと思う。

委員：税金でやる価値があるかという判断は2種類あり、広く市民の役に立つから税金でやるという考え方と、採算が合わず民間企業がやらないから税金でやる考え方がある。定員50人中参加者16人という少ないと言うが、逆に16人はすごく偉いと思う。若い人は1回面白いとわかれば1時間並んでドーナツ1個買うことを平気でやる人たちであるが、皆が行かないところには行かない。先陣をきって参加した貴重な16人は手放さずそこから広がって行くこともある。やり続けないと広がらない。私自身、小学校で放課後学習教室を始めたときに、初回は2人しか来なかったが半年続けたらすごい勢いで増え始めた。わけがわからないところには行かないというのが若い人たちの発想である。様子を見て「あれはいいらしいぞ」と言うまで

継続しないと、結局「面白くなかったんだね」と言われて終わるだけだから、踏ん張りどころだと思う。タイトルが「若者応援プロジェクト」としている時点で若者がやっていないことがわかる。大人が「応援してやるぞ」と企画したと思われるので、勢いのありそうな若い人を企画委員に持ってきて、若い人が若い人に浸透させて行くやり方をできるところまで人脈が育つと、違った展開になるのではと思う。

事務局：我々が考えてしまうとどうしても大人が考えた発想になってしまうので、企画ベースから関わってくれるような方が加わって行けるようなものにしたい。推進計画のなかでも「若者が主体的となって」と表現されているので努力してまいりたいと思う。

委員：対象は主に10～20代とあるが、実際の参加者はそういった年代であったのか。

事務局：30代、40代もいらしたが、やはり一番多かったのは10～20代であった。とくに20代は3事業で24名であった。

委員：事業名は生涯学習センターがやるから「若者応援プロジェクト」でも良いと思うが、それを大々的にチラシや広報に出さなければよろしいのではないか。

委員：「あこがれのギョーカイ人に聞いてみよう」は場所を生涯学習センターにこだわらずに、中学校の出前講座でやってみればよいのでは。中学2年生の社会体験もあり中学生のニーズに合いプログラムとしては良いと思う。さがまちコンソーシアムの冊子を見ていると大学生の活動がたくさん載っている。無理してセンターで企画して人集めをしなくても、会場として使ってもらうだけでもいいのかと思う。

事務局：さがまちコンソーシアムでも就労系事業や若者向け事業はやっている所以連携をとりながら今後はやっていきたい。さがまちコンソーシアムに提案していくのか、こちらでやるのかは検討していきたい。

事務局：開催直前にさがまちコンソーシアム主催で「職種探究セミナー」という大学生の就職に特化した講座を開催されたが、広い対象を考えたのでセンター主催で行った。中学校の社会体験との件は、学校支援センターとの連携がとれるかだと思う。

委員：小学校でも働いている人の意見を聞く学習があるが、人を探すのに学校のコーディネーターもすごく苦勞されている。市がやると講師が集まるのはうらやましいと思ったので、連携の可能性はある。若者の集客は広報まちだなど読まない世代であるので、例えばツイッターを使うなどダイレクトに届く広報の仕方を冒険してみるのも良いと思う。

(8) 幼い子どもと暮らす親と子の交流ひろば「きしゃポッポ・パパと一緒にきしゃポッポ」

事務局：0～1歳の保護者を対象に、学習と交流の場として行うものである。母親を対象として月3～4回、父親を対象として月1回行った。トータル回数は48回に訂正したい。特別開催として4月は父親を対象にゲストを招いて講演を行い、3月は親子で来られるコンサートを実施し117人参加があった。事前意見において「今後も工夫して継続して行ってほしい」「子どもとの付き合い方がわからない保護者もいるので父親向け講座を続けて欲しい」といただいた。父親講座において、実際に私も参加したが貴重な話を聞くことができた。工夫をしながら今年度も継続していきたい。

(意見・質問)

なし

(9) 市民大学特別講座「町田の民俗」

事務局：企画書内「効果指標の結果」は、町田の民俗や郷土史の勉強を続けたいと思った人の割合は87%になり、少し難しいところもあったようだ。また、町田の民俗について関心が高まった人の割合は100%で鶴川だけでなくほかの地域の方もいらしたのでその地域への関心も含めたものだ。市民大学講座でも郷土史を扱いプログラム会議でも視点を変えた講座を企画する必要があるのではないかと議論されているが、今回は町田の民俗について4回に渡り特別講座として行った。定員30名のところ応募は71名となり、受付した1日ですべていっぱいになってしまった。フィールドワークの参加者は18人となり、満足度も高いものであった。

(意見・質問)

なし

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～8まで、資料のとおり報告する。

2、センター長報告

市民大学、ことぶき大学応募状況について、資料のとおり報告する。

(意見・質問)

委員：応募者数は第一希望の数か。また、第二希望も出しているのか。

事務局：その通りである。

3、2015年度の青年学級の日程について

事務局：スケジュールは、当日資料のとおりとなる。ひかり学級、土曜学級、公民館学級と3つに分けて実施しており、開級式は6月、成果発表会が2～3月にかけて開催される。

4、東京都公民館連絡協議会の活動について

○総会について

事務局：平成27年度の東京都公民館連絡協議会の総会が、4月15日日野市で開催された。センターからは、私、松田係長、中村主事の3名が、委員からは柳沼委員、二見委員、西原委員が出席した。26年度事業報告、27年度事業報告について予算等が審議され、一部予算数値、文言の訂正があったが承認が得られた。

○委員部会について

委員：3月25日福生市において開催された。1年間の反省と来年度に引き継いでいきたいという事項について話があった。今年度担当は拍江市になり、初回は4月22日に開催される。今年度は担当委員をバトンタッチし、新規担当委員とともに初回委員部会に参加したい。

会長：事務局で調整をさせていただく。

○学習会について

事務局：3月の終わりに教育委員会の制度変更についての研修に参加した。変わることは大きく2点あり、1点目は市長と教育委員からなる総合教育会議が「教育大綱」というものを作り、そこに市長の意見が反映されていく。2点目は、教育長と、教育委員長2つの役職があったが、新たに新教育長がこれらの役職を兼ねて舵取りをしていくかたちになり、大綱を作る上で新教育長が任命されていく。

会長：役職が新教育長となるのか。

事務局：今までの教育長から見分けをつけるため、「新」と言っているが役職名は教育長のままである。学校教育のほうが影響を受けるのではと言われているが、生涯教育についても同じ教育委員会に入っているため、今後の動向を見守りたい。

<その他>

会長：次回は6月29日月曜日10時～町田市生涯学習センター6階学習室2で開催する。